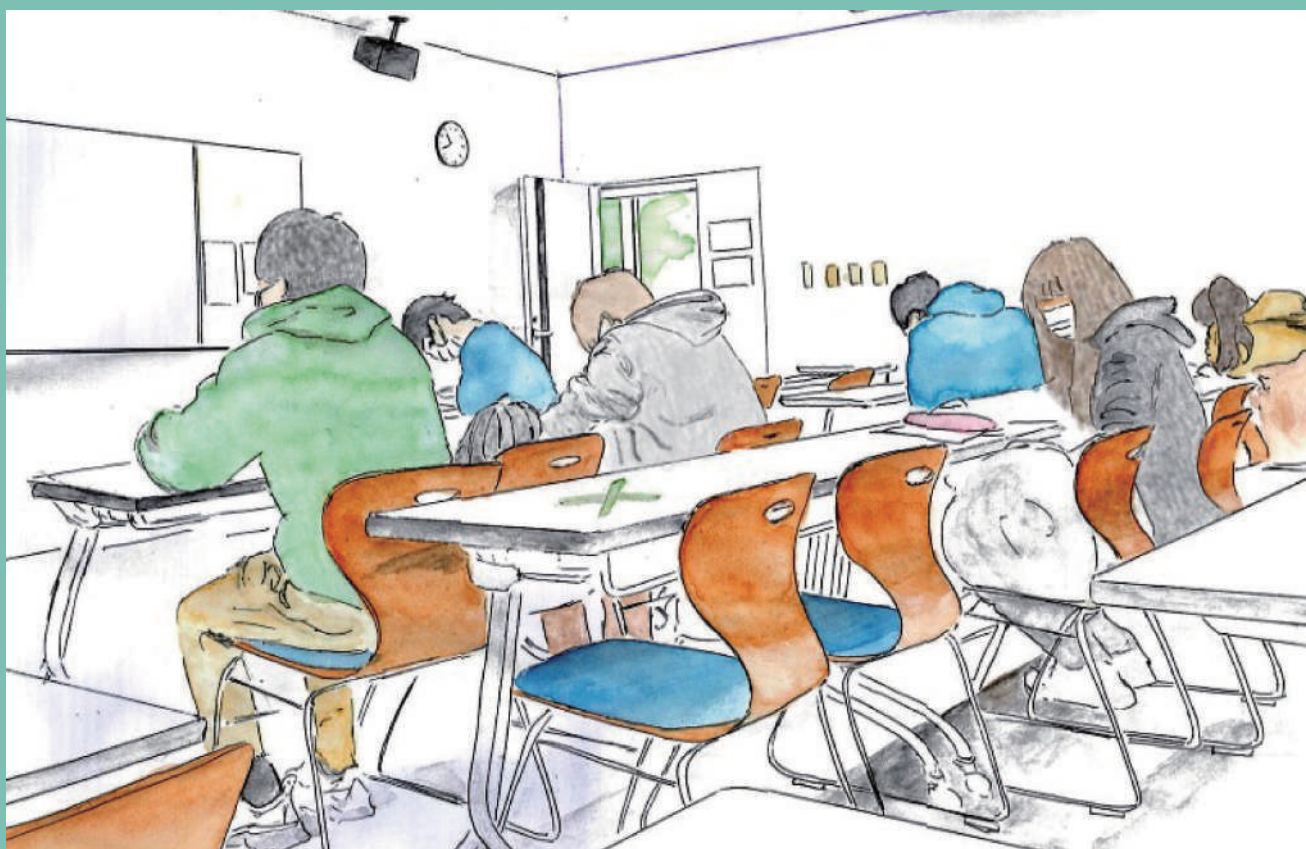


公益大ニュース No.12

02	—	04	新	任	教	員	座	談	会	,	05	—
06	研	究	活	動	,	06	教	員	の	新	著	,
07	—	08	教	育	活	動	,	09	お	答	え	し
ま	す	,	10	—	11	地	域	・	学	生	活	動



ようこそ公益大へ ——新任教員6氏に聞く

参加者

梅津千恵子 教授（国際教養コース）／青木孝弘 教授（観光・まちづくりコース）
加藤良浩 准教授（国際教養コース）／鈴木淳一 准教授（地域福祉コース）
藤原良太 助教（地域福祉コース）／今野 誠 特任教授（教職課程全般）

聞き手

吉藤瑠星さん（観光・まちづくりコース3年）／伊藤紗良さん（国際教養コース3年）

——きょうは2024年春、本学に赴任された先生方にお集まりいただきました。まず着任までの歩みと、公益大の印象についてお話しください。

梅津 大学を出たあと青年海外協力隊に入ってからケニアに行き、帰国後は国際協力機構（JICA）に数年いたのちに新潟の国際大学に行きました。その後ハワイ大学に留学し、日本に戻ってからは神戸大学、京都市にある総合地球環境学研究所、そして長崎大学、京都大学を経て、こちらに参りました。公益大は、公益というミッションで一丸になっている熱い大学だと感じます。学生へのサポートが手厚く、地域貢献にも真剣に取り組んでいる。図書館が土日にも開いているのは素晴らしいですね。

青木 名古屋、ワシントンDC、そして山形で仕事をしながらソーシャルビジネスの起業と資金調達について学びました。

公益大に博士課程ができた初年度に進学しまして、東日本大震災後は会津大学そして宮城大学で復興支援に関わり、再び本学に戻ってきました。

公益大の印象ですが、規模は小さいながらも多様性があります。先生方と地域そしてスタッフが連携してさまざまなプロジェクト型の教育研究が行われており、公益の原点を学ぶのにふさわしい大学だと思います。



あおき・たかひろ

東北公益文科大学大学院公益学研究科博士課程後期課程修了。会津大学短期大学部、宮城大学などを経て現職。山形県長井市出身

鈴木 私は福祉の現場一本で歩んできました。岩手県立大学の社会福祉学部を出てから20年以上、ソーシャルワーカーとして勤めていました。

4年ぐらい前ですが、社会福祉法人のあり方に疑問が呈された時期があり、法改正につながったのを機に、仕事をしながら大学院に通い始めたのが研究との出会いでした。公益大の印象ですが、先生方の専門が幅広いので、学生は簡単に境界を飛び越えて、学際的な学びができる環境にある。学生から主体的に外に出て、地域と一緒に活動しやすい大学だなと思います。



すずき・じゅんいち

岩手県立大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。社会福祉法人、株式会社での勤務を経て現職。岩手県出身

加藤 学部ではフランス文学を専攻しました。卒業後すぐに教育学部の英語英文学専攻科に1年間通って公立高校の教員になりました。あるとき、専攻科時代に読んだアメリカ文学の代表的な作家であるウィリアム・フォークナーの『響きと怒り』という作品を研究したいと思い、夜間の高校で教えながら大学院に通いました。公益大の印象は、多様な学びの場があるということです。もともと公益という考え方にはとても興味があり、このテーマを皆で追求する大学は非常に意義があると思います。

藤原 学部のときは社会福祉学が専攻でしたが、大学院では社会学に専門を変えました。修士課程修了

後にソーシャルワーカーとして勤め始めます。基本的に一番大変な状況にある子どもたちのところに行こうと思って、まず虐待など家庭で暮らすのが難しい



ふじわら・りょうた

法政大学大学院社会学研究科修士課程修了。NPO法人、自治体勤務などを経て現職。東京都出身

ことが他にない強みとして生きてくると思いますし、私もどう貢献していけるのか、楽しみなところですよ。

今野 山形大学教育学部を卒業後、2021年3月まで38年間、小中学校教育に携わってきました。定年退職

後は遊佐町教育委員会でコミュニティスクールや青少年健全育成などの社会教育に関わりました。特に中高生と地域住民が一緒になってボランティア活動に取り組む様子を見て若い力の大切さを実感しました。授業で出会う学生は真面目でよく努力すると感じます。研究室に連日足を運んで一生懸命勉強する学生や、運動部の学生が練習に励み土日の大会に出場しながらも時間を見つけて課題に取り組んでいる様子を見ると、とてもうれしくなります。

私の学生時代

梅津 日曜夜に仲間と課題解く
鈴木 手探りでサークルづくり
今野 厳しいゼミ、今に生きる



こんの・まこと

山形大学教育学部中学校教員養成課程卒。学校教員、遊佐町教育委員会社会公立教育アドバイザーなどを経て現職。山形県酒田市出身

——ご自身の学生生活はどのように過ごされましたか。

青木 私は法学部生でしたが、授業の出欠管理が今ほど厳格ではなかったので、友人に代返を頼み、他の学部や別の大学で経済学や心理学の授業をもぐりで受けていました。株や絵画への投資に夢中になったこともあります。投資すれば日経新聞も自分から読むようになって勉強になるからなどと先生から誘

われたのがきっかけですが、アルバイトで貯めたお金をつぎ込んで大損したこともありましたが、しかし、その経験は今の仕事に少なからず役に立っているのかなと思います。

今野 あえて苦しかったことをお話します。私は教育学部の中学校数学科でしたが、数学の卒業研究は洋書を読み込んでその内容をお互いに説明します。英語で書いてあるものを訳してゼミの中で説明すると、そのたびに先生からそれを証明してくれと言われて、しかし証明の仕方がわからない。それでも先生はずっと待ってくれるので、沈黙が続いたまま考えるんですが、どうしてもわからず、じゃあ次回までと言われて、次の時間まで考えてもなお結論が出なくて、先生に厳しい指摘を受ける、そんなことの繰り返しでした。最後に先生から、1年間このゼミでがんばってこれたら社会でやっていけると言われて、今は先生が厳しくしてくれたことに感謝しています。

藤原 学生時代はつまらなかったですね。がんばって入った割には、講義は本

を読めばわかる内容だったり、演習系の科目でもどこか、ごっこ遊びみたいだったり、これをやって何になるのかと思いました。転機となったのは、在学中に東日本大震災が起き、復興支援では障害者、とくに困っていると自分からは訴えられない知的障害者が無視されている状況に関心が向きました。そこで、大学院の先生がフィールドワークをしていた障害者の自立を支援する現場に入ったことが現在のインクルーシブ教育の研究につながっています。

加藤 大学院時代は、先ほど言いました『響きと怒り』について納得のいく解釈を見つけようと思い立ち、ノートに感想を書きながら解釈を検討しました。それでも核心のところはやはり難解でわからない。あるとき通勤電車の中でうつ



かとう・よしひろ

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程英文学専攻単位取得退学。公立高校英語教諭などを経て現職。山形県飯豊町出身

らうつらしながら、ああそうだ、と思ったことがありました。それは『響きと怒り』の中に死というこ

とがよく出てくるんですね。なぜこんなに死が出てくるのかと思います、キリスト教や仏教の本をいろいろ読んでみました。すると仏教の本に、死とは別れだ、と書いてあるのが糸口になりました。そこから生と別離は一体化しており、生きている限り別離は避けられない、別離があるということは生ある証拠である、という解釈に至りました。



うめつ・ちえこ

梅津 学部時代は剣道部だったので、そっちの方に時間を割いていた感じがします。勉強したのは大学院に入ってからですね。ハワイ大の大学院では同期の学生たちと一緒にスタディグループをつくり、毎週日曜の夜に寮の一室に集まって、解けない宿題を教え合ったりしました。そのときの仲間とは今でも交流しています。

鈴木 私が入学したときの岩手県立大学はできてまだ二年目だったのでサークルもほとんどなくて、作りたければ自分たちでどうぞという環境でした。そこで仲間とフットサルのサークルをつくったりと結構、一生懸命やっていました。そういう手探り感が面白かったなと思っています。その一方でホームヘルパーの資格を取りに専門学校に通い、在宅高齢者向けの施設のボランティアにも通いました。

——本学の学生に望むことや伝えたいことなどのメッセージをお願いします。

梅津 ここでしかできないこと、今の時期にしかできないことがあると思うので、自分の可能性を信じ

て好きなことに挑戦してほしいと願っています。

藤原 私の場合、ヘルパー介助者のアルバイトをするうちに、障害者にかかわる社会運動と出会い、行政と交渉する場面もあり、そこで学んだことが大きかったと思います。だから大学って、ただ与えてもらうんじゃなくて自分から学びに行かなきゃだめだという考え方に早々に切り替えました。しがらみのない自由な立場を生かして行動してほしいですね。

加藤 難解な外国文学を読み解くのに仏教書がヒントを与えてくれた話をしましたが、一見、余計で関係なさそうなことが大いに役立つ場合があります。自分の興味の範囲を広げ、いろいろな見聞を重ねながら、幅広く読んで知ることが大事だと思います。

今野 いま教職課程を担当していますが、4年生の教育実習の様子を電話で聞くと、子供たちが勉強を楽しく感じるような授業をつくりたいと強く思うようになったと話してくれます。体験を通じて得るものは貴重であり、ぜひ学生の皆さんには何事も精いっ

ぱい取り組んで、実感することを重ねてほしいと思います。

鈴木 今の時代

は情報が氾濫しているうえに、それが綺麗に見えるよう誰かが脚色してくれたりするので、本当に自分で選んでいるのか、誰かに選ばれているのか、わからないことがあります。本当に自分はそれに興味があるのか。そこを自らに問いながら自分で決めて自分で力を注ぐという体験をどんどんしてほしいと思っています。

青木 「事において悔いず」とは、私の同郷の大先輩であり秋田大学の学長も務められた新野直吉先生の言葉です。やってみて失敗したときの後悔よりも、あの時やればよかったと後悔するほうがダメージが大きいという趣旨です。社会的学割が効いて多少の無茶や不勉強、失敗が許される大学時代こそ、いろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

伝えたい
こと

青木 失敗を恐れずやってみる
加藤 余計なものにもヒントが
藤原 学びは自ら出ていくもの



よしふじ・りゅうせい
(私立山形学院高校出身)

先生方のお話を聞いて、大学生活を充実させるためにも、やりたいことを思いっきり楽しんでやるのが大切だと学びました。公益大では地域貢献をする活動がたくさんあるので、さらに積極的に取り組んでいきたいと思いました。

聞き手から

先生方の学生時代のお話は自分と重なるところが多くありました。生きていく上でむだなことはない、何でも気になることは挑戦するのが大事だ、という言葉が心に残りました。これからの学生生活も好きなことを追求していきたいです。



いとう・さら
(山形県立鶴岡北高校出身)

ベストアワードに張紅助教 ベストティーチャーにバンティング特任助教

本学は優れた研究成果を上げた教員を表彰する2023年度の「ベストアワード」に張紅助教を、教育実践に顕著な成果を上げた教員である「ベストティーチャー」にバンティング・ティモシー特任助教を選びました。3月26日、神田直弥学長らが出席し学内で授賞式を開きました＝右写真。



研究活動

研究成果の地域還元目指して

助教 張紅

本学2023年度のベストアワードという名誉ある賞をいただくことができ、心より感謝申し上げます。



大内宿には2018年2月以降、4回以上の訪問調査をしている（写真は筆者撮影）

私の研究では福島県下郷町の大内宿や福島県南会津町の前沢集落などを対象として、歴史的街並みの保全と地域資源の活用に関心をもち、焦点を当てて取り組んできました。

特に『季刊地理学』第74巻第1号に発表した「大内宿における歴史的街並み保全を促進する要素の考察」は、東北地理学会から高い評価をいただき、2023年には第16回東北地理学会研究奨励賞（長谷川賞）を受賞しました。この賞は、若手研究者である私にとって大きな誇りとなり、今後の研究に対するさらなるモチベーションともなっています。長谷川賞に続いての今回のベストアワード受賞は、私一人の努力だけでなく、支えてくださった多くの方々のおかげでもあります。改めて、心から感謝申し上げます。

今後は、日本の他の地域と海外の地域を研究対象として、これまでの研究で構築した歴史的街並み保全のプロセスを説明するモデルの一般性を引き続き検証していきたいと考えております。また、自分の研究成果を地域に還元し、歴史的街並みの保全に役立てたいと願っています。引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「話せる」を超えた英語授業を

特任助教 バンティング・ティモシー

ベストティーチャーを受賞してとても光栄です。英語よりコミュニケーションを教えていると思っています。ただし、コミュニケーション能力だけでは何もできません。英語が話せるだけではどうにもなりません。その能力をどう使うかがポイントになります。ですので、僕の授業ではできるだけ学生の興味のあるものを取り入れようとしています。学生が授業外でも、自分の興味のあるものをうまくコミュニケーションすることができたら、自分の考えが明らかになるし、相手と共有したり、あるいは納得したりすることにもつながると思っています。そして、これは本学が推進しているアクティブラーニングがあるからこそできます。アクティブラーニングでは、学生が中心とな

って、授業で学んだ知識を実践することによって、より良い勉強ができ、社会に出た時により力を発揮できると思っています。毎日、学生にいい授業を受けて欲しいという思いで頑張っていますので、こういう賞をもらうのはとても嬉しいです。これからもベストを尽くして、最高に良い授業をしたいと思っています。



産学連携で『ばんけせんべい』

原料に営農型発電のソーラー米

4月13日に酒田米菓様のご厚意により当ゼミ生プロデュースによる「ばんけせんべい」(右上写真)が発売されました。ばんけせんべいの特徴は、ばんけ(ふきのとう)のほのかな香りが春の訪れを演出しているだけではなく、公益学部の学生視点



として、メカニック様が育てたソーラー米を使用した点にあります。

商品開発の世界では、

「機能的価値」に「意味的価値」を付加することが重要だといわれています。味の良さも然ることながら、時代に合ったストーリー、つまり「意味的価値」を付加することで、製品の価値がより引き立つことを意味します。今回のばんけせんべいは、ソーラー米を使用したという「意味的価値」があるからこそ、商品価値が高くなったといえるでしょう。当ゼミでは、学生たちがそれぞれのプロジェクトに分かれ、新たな商品開発に取り組んでいます。逐次発売される産学連携商品を楽しみにお待ちください。

(准教授 広崎心)



上梓しました

“Evolution of the United Nations System—An East Asian Perspective” 条約の交渉過程を検証

准教授 樋口恵佳 (政策コース)



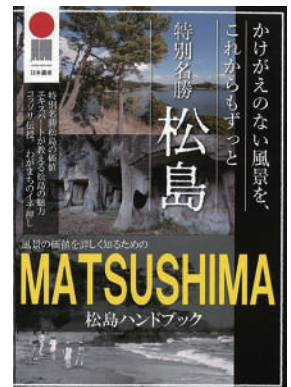
この本は、日本、韓国、中国それぞれの国連研究を行う団体（日本からは日本国際連合学会）が毎年共同で主催している「東アジア国連システム・セミナー」の20周年を記念した論文集です。私は国連で当時交渉が行われていた国際海洋法分野の新条約である「国家管轄権外区域の海洋生物多様性の保全および持続可能な利用に関する協定」(BBNJ協定)の交渉過程について、論点分野ごとの交渉難易度を国際海洋法の視点から考察した論文で参加しています。なおBBNJ協定は2023年6月に採択され、発効を待っています。(共編著、Routledge、254ページ、135ポンド)

『風景の価値を詳しく知るための 松島ハンドブック』

登って眺める松島の魅力

教授 温井亨 (観光・まちづくりコース)

国の特別名勝、松島の多面的な魅力を紹介し、その価値について知ってもらおうとつくられたハンドブックです。私は著名な展望地点である四大観について執筆しました。今、松島観光というと、瑞巖寺を訪れ、松島海岸から遊覧船に乗るのが定番でしょうか。しかし、かつては展望点に登り、多島海の風景を探勝することが多く行われました。それを代表する4つの眺めが四大観です。軽い登山と言えそうな上りもありますが、ハンドブックを参考にしながら、是非お試しください。購入ご希望の方は、東松島市観光物産公社(電話:0225-86-1511)にお問い合わせ下さい。郵送もしてくれるとのこと。 (“伊達”な文化) 魅力発信推進事業実行委員会、63ページ、700円)



アントレプレナーシップ演習が開講 起業家から刺激、学生の熱高く

「次の学年になるまでに、100万円を稼ぐにはどうする?」「山形には魅力がたくさん。でも人口は減少傾向。若者が残りたくなる改善案を考えてみよう。」

今年度スタートした新科目「アントレプレナーシップ演習」では、各界の多彩な起業家をゲスト講師に迎えての講話に続き、講師が提示するお題でグループディスカッションを行い、それに対してアドバイスを頂く、そのような双方向性の授業が展開されています=写真。

本科目は、昨年度本学に創設された起業（業ヲ起コス）研究所による企画で、「自らの意思で事業を起こして、地域や社会を変えていく起業マインドを持った人材の育成」を目的に、山形県の寄附講座として開講されています。

ゲスト講師はIT、メディア、伝統工芸、地域創

生など様々なフィールドの最前線で活躍中の起業家の方々です。「勝ちパターンを知る以上に、負けパターンを知ることが大事」「自分の価値や情報をきちんと貯めて資産化する」「ゴールを見据えて逆算して仕事を組み立てる」など自身の経験談や起業の実践的なTips、学生時代にやっておくべきアドバイスに触れ、学生の熱量はグングンと高まるばかりです。

（教授 青木孝弘）



社会福祉士養成課程が20周年 地域共生社会の担い手送り出す

2005年4月に山形県内の大学で初めて開設した社会福祉士養成課程は、2024年度で20年目に入りました。これまでに174名の社会福祉士が巣立ち、現場実習を受け入れてくださった施設・機関様は155か所に上ります。庄内地域をはじめ各地の施設・機関の皆様から多大なるご協力を賜り歩み続

けてこれられましたことを心より御礼申し上げます。

この20年で社会情勢は大きく変わりました。多様化・複雑化する地域のニーズへ対応する実践力がますます求められます。異分野・異業種と協働しながら地域共生社会を実現する役割がソーシャルワークに期待され、2021年度からはその要請に応えるべく、新カリキュラムのもと社会福祉士養成教育が行われています。

変化が大きい時代だからこそ変わらず大事にしたいことは「公益大ならではの」ソーシャルワーク教育です。今では卒業生が実習指導して下さる機会も増え、そんなとき、陰に陽に、この課題に私たちが叱咤激励されていることに気づきます。

福祉の単科大学ではなく、そして地域の皆様に求められて開学した公益大だからこそ、今後もその中でのソーシャルワーク教育の意味を考え、体現していきたいと考えています。

（准教授 小関久恵）



2024年度から始まった酒田看護専門学校との多職種連携授業

プロジェクト型応用演習「Koeki Kids Project」 公益の学び、学生から小中学生に

教育活動

「Koeki Kids Project」は、本学オリジナルの学びのプログラムとして2010年度に始まりました。公益学を学んだ学生が自らの学びの成果を小中学生にわかりやすく伝えるため、「公益を考える授業」の考案と実践に取り組んでいます。現在はプロジェクト型応用演習科目として2年生以上が受講しており、1年間の学びを深めた学生が小中学校に出向いて授業を実践します。2023年度までに105名の学生が庄内地域の小中学校12校38クラスの児童生徒を対象に、自身が考案した「公益を考える授業」を行いました。

本学学生にとっては、自身の公益学への理解を深め、また児童生徒や学校教諭等との関わりの中から地域の理解を広げることができるプログラムとなっています。一方の児童生徒は、大学生から学ぶことにより、他者や皆にとって良いことを考えて実践することを身近に感じることができ、自身をとりまく生活環境や地域社会について考えるきっかけとなっています。

15年間の成果の一つとして、小学生のときに「Koeki Kids Project」の授業を受けたことのある学生が本学に入学してこの科目を受講し、母校で授業を行うという新たなつながりが生まれています。今年もどのような授業が誕生するかワクワクしています。

(教授 武田真理子)



学生自身で指導案をつくって授業に臨む
(2023年12月、酒田市立富士見小)

注目
授業

キャリア科目「キャリアデザインa」 「働く」意味、1年生から深く

大学でのキャリア教育に対して、経団連と全国の大学でつくる産学協議会（採用と大学教育の未来に関する産学協議会）では、新たに学生のキャリア形成支援活動を提言しています。このような経緯から、キャリア教育を重視しているかどうか、大学選びで重要になっています。本学ではその動向をいち早く察知し、2024年度入学生から、1年生必修科目の「キャリアデザインa」を開講しました。

働くことの基礎知識に関しては、高校の学習指導要領においても重視されており、公民科目や家庭科科目の中でも扱っています。高校から大学の学びに展開させる高大接続科目として位置付けており、1

00働くことの基礎知識を学ぶ「キャリアデザインa」科目の意義を把握しよう

～100年ライフの生き方や働き方を考えよう～

Hello! 1年生のみなさん! 「入学したばかりなのに、もう就職の準備かよ」とか、「公務員になるから関係ないよ」と思っている方はいませんか? 本科目は、就職するためのテクニックを教える科目ではありません。あなたの生き方や働き方を考えさせる科目ですよ。



就職テクニックではなく、生き方そのものを掘り下げる (授業資料から)

年生から学び始めることについても「まだ早過ぎる」ということはありません。様々な学問領域のアプローチから、ひとが働くことの意味（自分自身を守ること）を学んでいく科目であり、社会への橋渡しを役割とする「社会との接点教育」科目でもあります。働き方が変わっていく社会において、早くから自分と社会とのつながりを考えることは強みになり、公益大での4年間の学びを有意義にします。(教授 阿部公一)

お答えます

素朴な疑問から地球規模の難題まで——
あらゆる「？」に本学教員がお答えます。

お答えます

Q. 消滅可能性自治体に庄内4市町。対応策は？

A. コンパクトシティ化と広域経済圏推進の両面から 持続可能な地域社会の構築を



回答者：

教授 三木潤一

「消滅可能性自治体」とは、2020年から2050年までの30年間で20～39歳の女性人口が50%以上減少し、人口減少が深刻化する可能性が高いと推測されている自治体のことです。全国で744自治体が該当し、東北地域は165自治体で、その数も割合も全国最多であり、社会減対策（人口流出の是正など）も自然減対策（出生率の向上など）もともに必要な自治体が大半となっています。庄内地方でも三川町を除く4市町が当てはまります。（人口戦略会議 2024年4月公表資料）

出生率が低い東京圏に若い世代が流出し、東京一極集中に歯止めがかからない状況です。人口減少は、自治体の財政やサービスの維持、地域の活性化や住民の福祉に大きな影響を与えます。人口減少下において消滅可能性が取り沙汰される自治体が、今後どのように対応すれば良いかという問題について、コンパクトシティ化、市町村合併、広域な経済圏、道州制、高速交通網の整備といった内容が重要であると筆者は考えます。

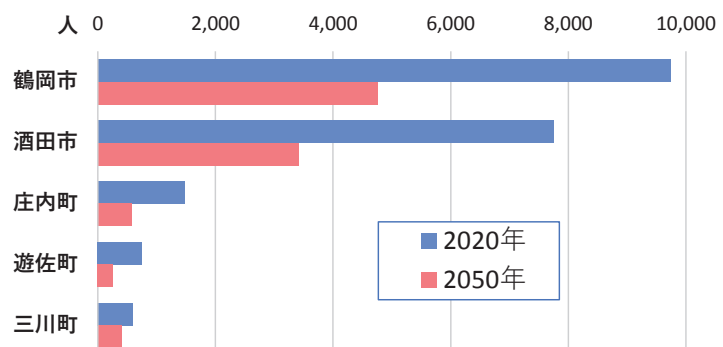
都市構造のコンパクト化（コンパクトシティ化）は、都市の中心部に住民や機能を集約し、人口密度を高めることで、都市の効率性を向上させるという考え方です。これにより、人口減少下においても公共サービスの供給やインフラの維持が容易になり、財政負担が軽減されることとなります。市町村合併は、近隣の市

町村と合併して、より大きな行政単位になることです。人口減少に伴い、財政や公共サービスの維持が困難になった自治体において、行政の効率性が向上し、財政力が高まることになります。

広域な経済圏とは、近隣の市町村や県などが、地域の産業構造や資源を相互に補完するために経済的な連携や協力を行うことです。現在の都道府県を再編して、より大きな自治体にするという考え方である道州制は、広域な経済圏としての適合やこれによる地域の直轄について検討されるべきでしょう。その際、地域間の移動費用を削減し、地域のアクセシビリティやモビリティを向上させるために、鉄道や道路などによる高速交通網の整備が不可欠となります。

市町村合併により一体化した地域における複数の中心部に都市機能を集約し、道州を範囲とする広域な経済圏を高速交通網の整備により形成することや、道州により直轄する地域を検討することで、持続可能な地域社会の構築を図ることができるのではないのでしょうか。

若年女性（20～39歳）は今後30年間で急減する



出所：人口戦略会議2024年4月公表資料により作成（2050年人口は「移動想定」を使用）

県内最多の16人に委嘱 山形県警の少年警察学生ボランティア

山形県警察本部の生活安全部が県内の大学生に委嘱する「山形県少年警察大学生ボランティア」として、2024年度は県内全体で23名のうち本学から16名の学生が活動しています。少年の非行防

止や立ち直りの支援などを行うボランティアで、街頭での少年非行・被害防止パトロール、農業体験を通じた少年たちの立ち直り支援、小中学校で行われる非行防止教室のサポートなどに参加しています。

2024年4月19日に酒田警察署で委嘱状交付式が行われ、小川広治署長より委嘱状と「非行少年のない地域づくりに協力して欲しい」と激励の言葉をいただきました＝写真。委嘱状を受けた佐藤嘉彦さん（4年生）は「私たち若い世代が少年と同じ目線になってコミュニケーションを取っていききたい」、設楽晏斗さん（3年生）は「学生の立場から子どもたちの非行防止や更生のきっかけをつくりたい」と抱負を述べました。

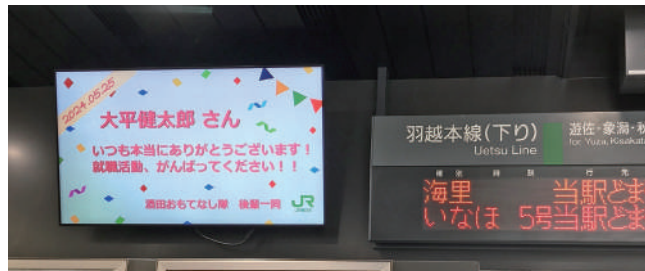
（地域共創センター 小野田栞奈）



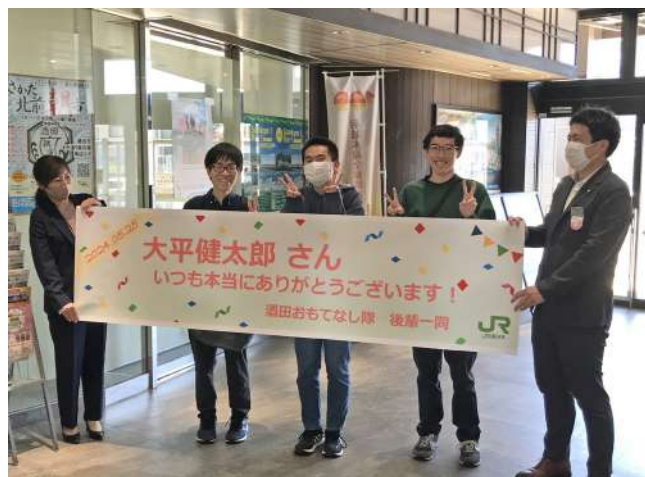
「駅での見送りや出迎えを演出する新しいサービスができないか」——JR東日本の方からこんな依頼を受け、私たち酒田おもてなし隊のプロジェクトは始まりました。トライアルとはいえ、これが本当に商品化されるかも、と思うと責任重大です。われわれ3年生は身近な人にサプライズを贈りたいと考え、就職活動が忙しい中でも相談にのってくれる4年生の前隊長に日頃の感謝を伝えることにしました。

「いつもありがとうございます！就職活動、がんばってください！！」

当日、何も知らずに酒田駅に連れてこられた先輩が、



JR東のサプライズ演出 酒田おもてなし隊が一役



改札口の上にあるモニターを見上げると、そこには後輩からの感謝の言葉が。駅係員の方からのメッセージ放送が流れると、横断幕も登場。駅じゅうが温かい雰囲気になりました。駅を自分たちのイベントの場にするという貴重な経験をさせていただいたJR東日本の皆様に感謝申し上げます。

庄内地域をフィールドとする学生サークル「酒田おもてなし隊」は今年、10周年を迎えました。酒田駅を通るJR羽越本線もこの夏で全線開通100周年。互いに節目を迎えた両者が手を結び、これからも庄内を盛り上げていきます。（国際教養コース3年 白山幸輝）

データでみる公益大

カフェテリア、原材料費上昇と格闘

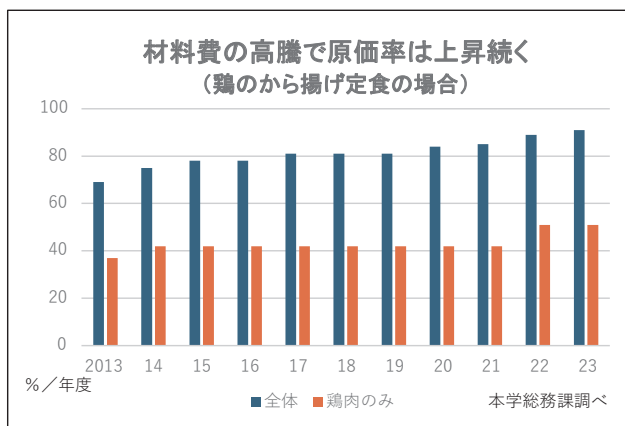
本学カフェテリアはどなたにも開放しています。平日の場合、厨房では午前11時の開店に先立つ2時間で、合計でおよそ200食分を出せるように準備します。その日のメニューごとの食数は、計算して組み立てられています。たとえば週替りメニューは、揚げ物、オーブンで焼いたもの、鍋を使った炒め物や煮物など、調理器具ごとに最適なスタッフ人数を配置することで効率を上げ、限られた時間内に提供できるようにしています。

週替りメニューの中で世代を問わず人気ナンバーワンなのが「鶏のから揚げ」定食（写真）です。醤油味を始め、塩から揚げ、油淋鶏、甘酢がけ、ヤンニョムチキンなど、関連するメニューはどれも大人気で売れ残ることはまずありません。日によって300個から350個ほどのから揚げを2時間以上、スタッフが付きっきりで揚げます。決まった温度、時間で一つひとついねいに揚げ、最後に鶏肉の中心温度を確認したり目視したりして、美味しく安全に食べていただけるよう注意しています。

食材については、できる限り国産や地元産を使い、無添加で化学調味料不使用などにこだわっていますが、現在、原材料の価格が高騰しているのが悩みです。鶏肉や食用油の値上がりで、から揚げ定食の原価率は2023年度で91%と、この10年間で22ポイントも上昇しました。このため「ちょうどよく売り切れる数」をこれまで以上に厳しく予想し、なるべく食品ロスが出ないように週ごとに細かく調整しています。

ちなみに、鶏のから揚げ定食は1日、60～70食程度のご提供です。どうしても食べたい！という方は、1時限目と2時限目の間に、先に食券をお求めいただくと、ほぼ確実にゲットできます。「こんなものが食べたい」というリクエストも歓迎します。新しい人気メニューの候補をぜひご提案ください。

（総務課 齋藤久美）



読者アンケート

「公益大ニュース」12号の内容はいかがだったでしょうか。今後のよりよい誌面づくりに生かしていくため、ぜひ読者アンケートにご協力をお願いします。

右の2次元コード、もしくは下記URLから回答フォームに入ってお答えください。
(<https://forms.gle/KoXkYALbyWLt4wDk9>)

任意で氏名・住所をご入力いただいた方へ抽選で30名様に大学名入りのボールペンをお送りします。
(当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます)

アンケート締め切り：9月30日（月）17：00

回答フォーム





酒田まつりに学生165人参加

「酒田まつり」は毎年5月20日に開催される歴史あるお祭りです。今年、本学学生は雨にもかかわらず大獅子「松」をひいて、山車行列を盛り上げました。恒例行事の“獅子パッコン”も行いました。



東北公益文科大学

Tohoku University of Community Service and Science

<https://www.koeki-u.ac.jp/>

編集後記 10年、20年という節目を迎えた授業やサークルがある一方で、新たな大型科目も始まりました。開学から数えて24年目。地域の、そして時代の要請にこたえる大学として、積み重ねた伝統を生かしつつ、変革に取り組む本学の姿をお伝えします。読者アンケートにもぜひご応募ください。(加藤)

編集スタッフ 加藤嘉明(編集長、特任教授)、温井 亨(表紙デザイン、教授)、樋口恵佳(准教授)、張 紅(助教)、進藤 啓(地域共創センター)、小野田葉奈(同)

表紙イラスト 小野寺多映(観光・まちづくりコース4年)

「公益大ニュース」12号 2024年8月発行

発行者：学校法人東北公益文科大学 〒998-8580 酒田市飯森山3丁目5番地の1

Tel：0234-41-1115 Email：kyoso@koeki-u.ac.jp (地域共創センター)